



第2回

ご家庭と保育施設で守る 子どもの安全

株式会社ピスタ
代表取締役

ほそがや だいすけ
細萱 大祐



災害から子どもをまもる方法（ご家庭と保育施設の連携）

皆さんこんにちは、「ご家庭と保育施設で守る子どもの安全」の第2回目をお送りいたします。今回は、災害から子どもを守る方法（ご家庭と保育施設の連携）について考えていきたいと思います。

災害から子どもを守るためにご家庭での備えとしては次のことが特に重要です。

①震災に備えて家具、家電の置き方などの工夫

震災時、家具や家電などは倒れ逃げ道をふさぐだけでなく、人の上にのしかかってきます。そのため、**倒れないように壁に固定する**などの工夫が必要になります。

また、そもそも子ども部屋や寝室などには**大物の家具を置かない**という発想も大切になります。



②飲料や食料などの準備



災害時、電気やガス、水道などのライフラインが止まることを想定して普段から飲料や食料の準備をしておく必要があります。最低でも、家族全員が三日は生活できる飲料や食料の準備が必要です。このように考えると身構えてしまう方もいらっしゃるかもしれませんが、何も特別な準備をしなればいけないというものではありません。**普段の食品を少し多めに買い込む**ということを習慣づければ自然と自宅に食料が備蓄されていきます。イメージとしては、**自宅に三日先の献立の食品までは常に準備されている**状況です。ちょっとしたコツとしてはレトルト食品やカップ麺などの調理が簡単な物を選ぶと災害時の調理が楽になります。

また、飲料に関しては**1日1人1リットル**を目安に、**家族全員分の飲料を三日間分**はご自宅に準備しておいてください。そして、ガスコンロとガスボンベの準備があれば、災害時にライフラインが止まっている中でも、温かい物を食べることができますので、準備することを強くお勧めいたします。

さて、今までの事柄はご家庭で取り組めることです。ここからは「ご家庭と保育施設の連携」で災害から子ども守るという点について考えていきます。

みなさまにお願いしたいことは、通われている保育施設からお迎えの要請がありましたら、ご自身の身の安全を守ることを忘れずに、できる限り早く我が子のお迎えに行きたくて欲しいという点です。保育施設の先生たちは子ども達が不安にならないように精一杯対応してくれていると思いますが、お父さんお母さんの顔を見ると安心します。また、保育施設は残念ながら災害に強い環境ではありません。それは、立地状況や建物が安全ではないということではありません。一人で避難できない者を「災害弱者」と呼びますが、危機管理的に保育施設を分析すると、一人で避難できない災害弱者が集まっている施設と診断することができます。そのため、少しでも早いお迎えがいかにか大切にご理解ください。また、台風で代表される雨災害の発生が予想される場合に、園から家庭保育のお願い、休園のお知らせがあった場合も考え方は同じです。保育施設は災害に強い施設ではありません。災害時、園に預けておけば安心ということではありません。保育施設は当然、災害時に子どもたちを守るための備えをしていますが、災害時には親御さんの協力が不可欠であることは忘れないようにしてください。



事務局より

次回配信は10月を予定しております。テーマは家庭での事故防止についてです。また次号でお会いしましょう！

チラシPDFはこちら

